つながる ひろがる わ 浜田市編

しまね学習支援プログラム「地域魅力化プログラム」を活用したみなさんの様子をお伝えします。

「参加型学習でつながりを深める！」

杵束まちづくりセンター
主事　河平　颯希　さん

「公民館等職員研修」「社会教育主事講習[B]」「ファシリテーター養成講座」など、当センター主催の研修を多く受講されている河平さん。今回は「ファシリテーター養成講座」での学びを活かして取り組まれた杵束まちづくりセンター通学合宿事業で実際にファシリテートされた様子を紹介します。

●「親子のつながりを深めるピクチャーワーク！」

Q：どのような経緯で親子を対象にしたファシリテートを計画されたのですか？

河平さん　杵束まちづくりセンターでは、毎年子どもたちの自立と協調性の向上と地域の方々のつながりづくりを目的として、夏休み前に小学生を対象に通学合宿を主催しています。例年、みんなでご飯を作って食べたり、宿題をしたりして集団生活を送りながら、そば打ち体験や散歩などの体験活動も行っています。今年の内容を考えていた時にふとひらめきました！ちょうど夏休み前だし川や海で遊ぶ時に自分の身を自分で守れるといいじゃん。せっかくなら親子で一緒に考えて、話し合ったらつながりも深まるし。と。そこで、通学合宿の内容に親子で地域の危険な場所について考えるワークショップを計画することにしました。

Q：当日までにどのような準備をされましたか？

河平さん　どんな内容にしようかと考えていた時、以前受講したファシリテーター養成講座で使用した地域魅力化プログラムに防災関係のプログラムがあったことを思い出しました。そこで、西部社会教育研修センターのスタッフに相談しました。内容や進め方についていただいたアドバイスをもとに、同僚やセンター長、地区サポーターの方にも相談をしました。そこで、実際の川の拡大写真を使うことやアイスブレイクを地区サポーターの方に担当してもらうこと、サブファシリをしていただくことなどたくさんのアイディアが生まれました。

【ワークショップの様子】

Q：ワークショップ当日の様子を教えてください。

河平さん　ピクチャーワークとラベルワークの手法を取り入れて、地域の危険な場所について親子で話し合いました。まず、親と子でそれぞれに危険だと思う場所を考えました。次に、危険だと思う理由を付箋に書いて地図に貼って話し合いました。最後に、他のグループと考えを共有しました。どの親子も真剣かつ楽しく取り組んでいる姿が印象的でした。また、「そうだよね。」「良いところに気づいたね。」などと互いの考えを共感的に受けとめるあたたかい雰囲気でした。親と子それぞれが自分の考えをもち、真剣に話し合うことで親子のつながりがより一層深まる時間になったと思います。

【グループでの話し合い】

Q：当日のファシリテートではどんなことを意識、工夫されましたか？

河平さん　意識したことは３つあります。１つ目は、完璧過ぎないありのままの自分をさらけ出してファシリテートすることです。２つ目は、グループの話に入り過ぎないということです。３つ目は、先ほども話しましたが、一人ひとりが自分の考えをもつ時間を設けたことです。この３つを意識してファシリテートをしたことで、安全安心の雰囲気の中、親子それぞれが自分の考えを素直に伝え合いながら真剣に楽しそうに話し合う姿がたくさん見られました。そんな姿を見ていると、私も安心感と達成感を感じることができました。

●「参加型学習を通して”つながり”と”考える力”を！」

Q：今後についてお聞かせください。

河平さん　まずは来年度以降もこの通学合宿の事業でのワークショップを続けたいと思っています。これからも、親子で一緒に考える機会をつくることで、親子のつながりを深めていきたいと思います。さらに、中学生や高齢者など、多世代の関わりを増やしたいと考えていきます。今後は、多世代の方に参加していただくことで話し合うことのよさや人とつながるよさを地域のより多くの方に感じていただきたいです。